



# 共同通信



2009年7月18日 155 (365号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 55 『大器ではないが晩成型』

中学か高校の進路指導で担任から「大器ではないが晩成型だ」と言われたとおり、頼まれた原稿の締め切りを過ぎて、皆さまに、とりわけ大平さんにご迷惑をおかけしました。お詫びします。

「何でも良いから書いて」と言われずいぶん悩んで、頂いた過去の共同通信も拝見しましたが、結局自分の事を書くしかなくなりました。それで、自分と向き合う良い機会でもあると思い、自分の生まれ育ちから書きます。

父は、今はかつての津名郡五色町鮎原上村に農家の長男として生まれましたが、両親の反対と勘当を振り切って牧師になり、別の三原郡三原

町で伝道所を開きました。恐らくその村史上初のキリスト教会で、同じ淡路島でも違う村の人間が違う神さんを広めていることで、かなり異質な存在だったと思います。母は岩手県一関の近くで生まれ育ち、51年前に結婚して伝道所開設間もなく父のもとに来ましたから、もっと異質な存在です。どうしても抜けない東北訛りをよく馬鹿にされたと言います。私自身はその村で村の子として生まれ育ちました。でも異質な存在に違いはありません。よく笑い話で言うのですが、村の中で「キリストの子」と呼ばれました。何のことはない「キリストさん(つまり教会)の子ども」の短縮形ですが、後で「お前は、自分

たちとは違う」の意に気づきました。もちろん何か直接的物理的なことをされたわけではありませんが、幼いこちらには分からない雰囲気です。完全には受け入れられないとのメッセージを受けていたと思います。父はよく「ここに40～50年住んで、やっと居ることだけ赦されるようになった」と言いますが、それは本当の自分を、わが家族ならクリスチャンということを表に出さないなら居てもいい、という意味です。もちろん故郷の悪口を言うわけではありません。でもそんな中で拒まれている自分を、自分でも拒み、避けて通るようになったと思えます。

ただキリスト教をやっていると、ずっとそういうわけに行きません。人に自分の言葉を語る時、そこに自分と向き合い見つめる作業が伴います。牧師でなくても、究極的には神なるものと向き合い、そこに向かって自分の言葉を語るという事があります。さもなければ自分をごまかすしかない。けれどもそれは人をごまかし、神をもごまかすことに繋がっていきます。ここ最近で、それではダメだということをいちばん教えられたのが、宝塚教会に来てからの熊谷一綱先生との出会いでした。

熊谷先生は亡くなる直前病室のベッドで「人の予想を裏切って、真正面から人に問いかけ、人が全く思い

悔い改めを迫られる」と話されました。「ここまで自分は苦しんだからもう良いじゃないか、こんなに自分はやってきたじゃないかと思った矢先、人は本当に神の前に立たされる」という話にとてもショックを受けました。幼いとき父から「神の目をごまかし、逃げて生きることは出来ない」と言われたことを思い出しました。

大切なのは、神の前に立たされることに悩み恐れるのではなく、悩み恐れながら所詮人間はそこに立つより他ない自分を受け入れることではないでしょうか。そう思うと「お前は私たちとは違う。異質だ」と言いながらも同じ村で付き合いながら生きてくれた人たちの存在が身近に思えてきました。

前隣の農家では、じいちゃんが孫のように可愛がってわら縄の作り方を教えてくれたり、おばちゃんが村祭りで自分の子と同じように親戚の家に連れて行ってご馳走してくれたりしたことを思い出しました。右隣で豚を飼っていたおっちゃんも、普段ものすごく怒りっぽくて怖かったのに、なぜか1回だけ馬を飼ったとき私をその背中に乗せてくれた記憶がよみがえりました。

その時は小さすぎて分からなかったけれど、「キリストの子」は「キリストの子」でしかありません。同じように村の人でもそれ以外の何者にもなれず、お互いにそういうもの同士で

相手の前に立つより他ありません。  
でもそうでありながら一緒に生きて  
いくしかない中で、どうであれまず  
は相手を「居ても良い」存在として認  
めあう事が始まるのだと思います。  
またそれは自分自身にも言えると思  
います。どうしようもなく神と人の  
前に立たされるより他ない自分に改  
めて向き合うとき、あまり嬉しくな  
い人も含めどうであれ自分と関わっ  
たり触れ合ったりしてくれたいろん  
な人たちがいて今の自分もあること  
に、ようやくと気づかされつつあり  
ます。

「大器ではないが晩成型」なので、  
まだまだ人にも自分にもごまかさな  
いで生きていく事が上手くは出来て  
いませんが、50歳になったこれから  
ちょっとずつ成長していけることを  
願っています。

( 佃真人・宝塚教会 )

「…山とか海辺とかを全感覚で生活している人たちがいるんですよね。文字に書かれぬ哲学を生きている人たちが。全感覚を、フル動員して生きて、生活を支えている人たち。うのはお百姓さんであったり、手と足と体、全身を動かして働いている人たち。まあ間に農機具をおいててもいいんですけど、船や網を使って裸足になって者で、いま原初と言いましたけれども、原初というの教科書に書いてある世界だけじゃなくて、今現在も破壊されてきてはおりますけれども、原初の世界というものはまたあると私は思っています…」

(「ことば・こねね・すがた」石牟礼道子)

「・・・恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」と、イエスに誘われた、ガリラヤ湖の漁師シモン、アンデレは「すぐに網を捨てて」「いっさいを捨てて」彼に従うこととなります(マルコ福音書1章16～19節、ルカ福音書5章10、11節)。この時、マルコによる福音書のイエスはそうして呼びかけるのを説得する材料を用意したりしません。唐突なのです。ルカによる福音書の場合には、結果的にシモン、ヤコブ、ヨハネが“いっさいを捨てて”イエスに従うことになったとしても、そういうことが起こるであろう理由が述べられています。「群衆が神の言を聞こうとして」ゲネサレ(ガリラヤ)湖畔のイエスのもとに押し寄せます。その時の群衆は「イエスから神の言を聞こうとしていたのだ」と言います。聞きたかったのは、“神の言”でしたが、

群衆の目の前で起こったのは、シモンの船の“大漁”でした。「先生、わたしは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」(15章5節)。「そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れが入って、網が破れそうになった」(6節)。そんな出来事を目の当たりにして、「シモン、ペテロはイエスのひざもとにひれ伏し、・・・シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも同様であった。・・・」と、驚いている彼らは、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」と呼びかけられ、「いっさいを捨ててイエスに従った」ということとなります。となりますが、5章1節の“神の言”を聞こうとして押し寄せた群衆の存在は、どこかへ消えてしまいます。ルカによる福音書は、群衆の存

在なんかどうでもよくって、群衆の“神の言を聞きたい”という期待を手掛かりにして、より具体的にそのことを示すのが目的であるように読めます。いわゆる“神の言”は聞けませんでしたでしたが、“夜通し働いても何もとれなかったのに”“沖へこぎ出し、網をおろしてみなさい”というイエスの言に従ってみると“おびたしい魚の群れが入って、網が破れそうになった”ということが起こります。期待していた、いわゆる“神の言”は聞こえませんでしたでしたが、目の当たりに起こった出来事、そのことを引き起こしたイエスの一言“沖へこぎだし、網をおろしてみなさい”ということが、他の何よりも“神の子”であることが明らかになります。“そうではないですか”というのが、5章1節の群衆の期待に対する答えなのです。イエスの事が、神の言であり、神の言(ことば)の実現なのだ、ルカによる福音書は言いたいのです。

マルコによる福音書のイエスは、いきなり唐突に“わたしについてきなさい。あなたがたを人間をとる漁師にしてあげよう”と声をかけ、声をかけられたシモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネはイエスに従います。ルカによる福音書のように、“神の言”“神の言の実現”を目の当たりにすれば、“それを実現したイエスに一切を捨てて従う”のは、それをしやすい、ということになります。他方、いきなり唐

突に“人間をとる漁師にしよう”と言われ、“無条件に、すぐ網を捨てて”従うというのはそれはそれで唐突です。

唐突なのですが、“無条件にすぐに網を捨てて”従うにあたって、何かがそこで起こっていました。“神の言”が期待され“神の言”“神の言の実現”でなかったのは確かです。そうではなくても、人は自らの一步を“無条件に、すぐに網を捨てて”というように歩み始めることが起こる・・・あるいは起こり得るように思えます。確かに“神の言”“神の言の実現”を目の当たりにすれば、その一步は始めやすくなります。なりますが、それって“自分の立場を他人の立場に託す”ことであって、その人の、その人にしかない歩みとは言い難くなります。そうではなくて、いきなり現われて、いきなり“人間をとる漁師にしてあげよう”と言われたにしても、その人の声、その人の目の輝きなどに、一つの大きな決断を促される、ということはあるのです。そして、このときの決断の意味は、促されてではなく、自分の立場を他人の立場に託すのでなく、自分の決断であるところに、ルカによる福音書のそれとの違いがあります。

(菅澤 邦明)



年もカードを首からさげ、絵本バッグを手にお店を回りますが、すれ違うどの子も心からの笑顔を見せてくれました。そんなみんなの姿から、みんなのわくわくがいっぱい伝わってきたのでした。夕方からの一般の部では、たくさんの方々が幼稚園に足を運んでくださいました。

園児はもちろん、そのご家族、お引越した子どもたち、卒園児、地域の方々...みんなの笑顔や楽しそうな声で包まれた一日でした。公同で生活する年数が増えるにつれ、懐かしく声をかけてくれる人が増えることを嬉しく思います。フィナーレではみんなの思いがいに詰まった笹が、立てられました。今幼稚園で共に過ごしている仲間たち、かつて共に過ごした仲間たちがこうして同じ場に集まり、豊かな時間を共有できるというのは、とても幸せなことだと思いました。幼稚園の近くで、遠くで、多くの方が心を寄せてくださり、こうして今年も無事にほしまつりの日を終えられましたことを心より感謝しています。何日も前から準備をしてくださった方々、当日足を運んで下さった方々みんなで作り上げたほしまつりでした。

年長ぐみは、都賀側、仁川、ウォーターランドで、さんぽ・らった・ぼっぼぐみは幼稚園のプールで、それぞれに水とのふれあいを楽しみました。毎月行われている各クラスの「親子

でわらべうたの会」も7月はプールバージョンで行われます。園庭で遊んでいてもプールから歌声や楽しそうな笑い声、時には水のシャワーが降ってきます。水の中だと、普段のわらべうたも違った楽しみ方ができて大いに盛り上がったそれぞれの時間でした。おうちの方々も気合を入れて水着に着替え、水と、子どもたちと思い切り触れ合っておられました。こんなふうに、真剣に遊んでくださるおうちの方々の姿があってこそわらべうたの会。子どもたちもいつも以上に笑顔が弾けていたように感じました。

7月18日(土)に1学期の終了式を迎え、幼稚園は夏休みに入ります。4月の姿からずいぶんたくましく、それぞれに成長した子どもたち。そんな子どもたちをいつも温かく見守り、幼稚園の生活をお支え下さり、ありがとうございました。

(山崎 由貴)

## グアテマラ便り●@

先月、ようやく幼稚園で子どもたちと関わる時間が取れることになったお話を書かせていただいたのですが、なんと新型インフルエンザ（これも前回にも触れましたけど）で腎不全を併発し、死亡者（子どもでした）が出たのをきっかけに、2週間の休校になってしまったのです。

今回は子どもたちの様子、少しだけお伝えします。

8時半に、子どもたちは集合しています。1クラス40人弱、でも全員来ることはなさそうです。これは学校や先生によるのでしょうか、出欠をとらないので、私も名前を覚えるのが難しい……

この日は創立記念の式が校庭で行われました。まず、年長児が国旗、学校旗を前に列になって運んできます。更に、国歌の斉唱。3～6歳の子どもたちが、きちんと胸に手を当てて国旗を迎え、国歌を歌います。これは、大人も同じです。何番まであるのかわかりませんが、とても長い国歌です。私の友達「世界で2番目に美しい国歌」（1番はフランスとか……）といい、作曲者の記念館にはガイドクラスでも見学に行ったくらいなので、みんな誇りに思っているようです。ちなみに作詞は公募され、誰の作であるか

も秘密でした。キューバ人の作者が亡くなると、明かされるとされています。自由と誇りを歌い上げています。ちゃんと訳せないんですけど。。。確かにステキな国歌ですよ。

先生のお話、年少さんも旗手をやってみたり、なんだかんだで1時間ほど、さんさんと照るお日様の下、ずっと立ちっぱなしです。端っこで、柱にもたれかかりそうな子どもたちには、先生の注意が……

正直、隣に立っていた私の方が、辛いよ～という感じでした。少し陰に移動して、腰を下ろしても、さらに式は続き、各クラス、応援歌のような掛け声を披露。。。ようやく終わったのは、10時のおやつの時間でした。

担任の先生に「子どもたち大丈夫か、心配でした」と言ったら、「私もよ～」と言うお答え。さすがに年少さんには1時間半、外で立っているのはつらいですね。みんな元気におやつを食べ、遊んでくれてよかったです。

（横山 佳代子）

## みかん便り●@

6月、去年に引き続き今村組で夕張に行ってきました。夕張の人たちと話す機会がありました。夕張の人は言っていました。「昔は炭鉱に働く人が いっぱいいいて、給料も良くて、夕張の人は贅沢で入ったら入っただけお金使って、昔はこの通りに百貨店もあった。でもそのお金って今考えたら全部税金やったんやね」と笑っていました。高校生は「あたしらは夕張から離れんよ。この町好きやから。」と純粋な笑顔で答えてくれました。夕張のおじいちゃん、おばあちゃんたちは本当に温かいです。現地に着いておばあちゃんがかけてくれた言葉は「おかえり」。別のおじいちゃんは「京都から100人で来てくれたんや。ありがとう」と手をとってくれました。演舞の途中で席をたったおじいちゃんは「ごめんな。ちょっとこれから用事があるのや。ごめんな」と何度も頭下げられて、「来年もまた来てや。」と言ってくれました。

去年は夕張の人に元気を与えに行こうと夕張へ向かいました。しかしそれは間違いでした。夕張の人たちはみんな元気です。どんなに財政が破綻しても、どんなに過疎化しようとも夕張の人は前を見ていました。

私は失敗を後悔する人です。1つミスをすると全てが悪いかもしれないと疑ってしまう人です。大学受験もそうでした。最後の最後でやっと受かった愛媛大学。しかしただ大学に入っただけで、何も目標もなく2ヶ月をすごしていました。実際愛媛にいるよりも、週末京都に帰り踊りの練習をするほうが楽しかったです。でも去年の6月に夕張に行き、夕張の人たちとふれあい、今を楽しく生きないと勿体無いと思いました。6月からは学校が楽しくなりました。新しい友達もでき、今は毎日が楽しいです。そのきっかけはこの夕張への遠征でした。実際に学んだことは少ないかもしれませんが。学んでいる事を気付いていないかもしれません。でも、変わるきっかけをもらうことができました。去年夕張に行っていなければ今の私はありません。自分の中でも大きい1日を過ごすことができました。

そして今年も夕張へ行きました。「夕張へチャリティーで行く！」などと立派なことは言えません。ただ自分が行きたいから行きました。少しでも人のために何かをしたい。少しでも人のために生きていると実感したいがために行きました。

今年は大雨が降りました。会場であった清水沢商店街広場は使えなくなり、急遽体育館を借り行うことになり 9

ました。雨の中突然の会場変更をしたにもかかわらず夕張の人たちは何十人も来てくれました。今回の目的は、またおばあちゃんたちに会いたい。一緒に楽しい時間をすごしたい。それだけです。おばあちゃんたちはまた温かく迎えてくれました。スムーズに行かない部分もありましたが、夕張の人たちは温かく見守ってくれていました。夕張でのチャリティーLIVEが終わり、翌日から札幌YOSAKOIソーラン祭りが始まりました。会場には夕張のおばあちゃんたちが応援に来てくれていました。それが何よりもうれしかったです。またおばあちゃんたちの前で踊れることがとても幸せでした。普段大人の人と触れ合う機会はあまり多くありません。高校時代は親と教師ぐらいです。大学に入っても教授やバイト先の人ぐらいです。幼少の時から親が共働きのため親と触れ合う機会も少なく、大人のおの温かさを感じる機会が少ない生活をすごしていました。大人は忙しいことを理由にする生き物だと思っていた時期もあります。高校では教師への反発もありました。

しかし、ようやく今回学んだことがあります。ようやく気付いたことがあります。「人との出会いを大切に」ということ。私にとって夕張との出会いは1つの分岐点になりました。

10 チャリティーLIVEの最後は、夕張の

人たちと手と手を取り合って歌ってお別れでした。今年も私たち今村組は夕張に限らず、これからもいろいろなところで演舞をして現地の方々と触れ合うだろうと思います。そして、いろいろな出会いがあるだろうと思います。その時の出会いで何を感じ取るのか、今後はどう生かしていくのか、いろいろなことを感じ取って学びながら成長していきたいと思っています。

夕張に行くのは待っている人たちがいてくれるから。それもあります。でも、本当の意味はみんなと一緒にいくことに意味があります。みんなが1つの目標に向かってここに行くことが本当の意味なのだわかりました。1つの目標に向かいみんなで必死に共に進んでいく。テレビドラマや漫画や小説ではごく普通のことです。しかし、現実を見てみると簡単にできることはありません。人と一緒に何かをすることはあるでしょう。しかし、自分を限界まで追い込んで『必死に』何かをする機会はほとんどありません。

私にとって人生で必死になれる時がこの夕張へ向かう2ヶ月でした。たった4分の踊りのために私たちはたくさんの時間を費やし、たくさんのエネルギーを使い、本当にたくさんのお世話になり、たくさんの苦しみを通り抜け、たくさんの涙を流してきました。何も知らない人が

から見れば、ただ踊るだけなのになぜそんなに必死になっているのか疑問を持つかもしれません。わずか4分間のためにたくさんの時間を費やす価値があるのかと思う人もいるかもしれません。しかし、私にとってはそのわずかな時間こそ生きていると実感できる時間であり、1番の学校でした。今年もたくさんのことを学びました。1番身にしみて学んだことは「感謝の心を持つ」ということ。夕張には私たち子供だけで行くわけではありません。メンバーの両親などたくさんの大人に支えられて向かいます。今年も遠征を支えて下さった、多くの皆さんがいました。それはスタッフの皆さん、ゲストの皆さん、プロデューサーさん、音響の皆さん、カメラマンの皆さん。そして親御さん。皆さんには素直に「ありがとう」という言葉が出ていました。自分たちのためだけにたくさんの大人が動いてくださっている。ここまでしていただいていると、何かしら恩返しすることは、人としてとても大切なこと。でも私たちにはただ精一杯踊る事しかできませんでした。私たち今村組メンバーも、これだけ多くの皆さんに支えられているから、力を発揮できます。支援して下さる皆さん、そして出会いなどから生まれた温かいふれあい。それらに対してしっかり感謝の気持ちを表せたのかは不安ですが、しっ

かりと自分なりに思いは伝えることができました。感謝の気持ちを持つことが大事なのではなく、それをしっかり伝えることが大事なのだということを学びました。これからの長い人生にてこの経験がどこかで生かされるかもしれません。この経験を大切にしようと思います。そしての想いを胸に、これからも頑張ろうと思います。

私は教師を目指しています。学校はただ勉強するためだけに行く場所ではありません。周りにはたくさんの支えてくれている先生がいて、いざとなったら一緒に前に進める友達がいます。常に一緒じゃなくてもいい。何かあったときには一緒になれる仲間を見つけてほしいと伝えたいです。

今村組に入り学んだことがあります。母がいて父がいて、子供もいて大人もいて、一緒に1つのことを目指せることが本当の学校なのだということが。私に何が出来るのかはわかりません。力不足かもしれません。しかし、次の世代である私たちが学校をこのような場所に変えていきたいと思っています。

(河村 高志)

## すずや便り

「いただき～まんもす！」はるか昔に一世を風靡したのりピー語（でも通じなかつたりして）ですが、最近の長男はそれを独自にアレンジしたものにハマっています。朝は「いってきまんもすいかりんとうがらしちみりんごりらっばんつみきんたまっちょまんごーるでんういーくいきんたまっちょまんごーるでんういーくりきんとんかちりめんそーすいかりんとうがらしちみりんごりらっばんつみきんたまっちょまん」。食事の前は「いただきまんもす（以下同文）」お尻二つをとったしりとりで読んでいただけたら、意味が取りやすいです。いかにも小4男子が好きそうな言葉は3回もリピートしています。お下品ですみません。言い始めたころは毎回変わっていたのですが、ひと月ほど前にこの形に落ち着きました。そしてどんどん早口になり、タイムを計ったら8秒！語感だけで、言葉の種類や意味など関係なく言葉をつなげているところが新鮮です。ちなみに寝るときは「おやすみんみんぜみんみんぜみんみん」実は私が提案したのが採用されたので面白くはありません。思い起こせば、子どものころは「瀬戸の花嫁」の語尾に食べ物をつけて歌っていました。「せとわんたん～しぐれてんどん～ゆうなみこなみそしる～」。統一感はある

りますよね。ことば遊びでお気に入りといえば「つつみがみつつ」（こどものとも226号）。文章がすべて回文になっている絵本です。「るすにする」から始まり、友人の家にお年始に行く話なのですが、途中で雨が降り出し「やや」「さがすやすがさ」そして「おともだちうちだもとお」の家に到着。「きゃくににくやき」「うらないならう」「うたうたう」と楽しんで帰途につくのです。一番のお気に入りフレーズはうちだもとおくん宅での「てつだつて」「てつだうよなんどもどんなようだつて」。こんな自然な会話が回文なんて！ツボにはまり、よく言っていました。普通に使ってもあまり違和感のないやりとりですから。と、ここまで書いて気がつきました。私の好きな言葉遊びって昭和の匂いがしているかも。息子はラップ調というか、とにかくリズムカルなのです。このテンポ感の違いも悪くはないのですが、子どものテンポに乗ってみたらもっと軽やかな日常になりそうです。大人の品位は忘れないように注意しなくてははいけませんけどね。では、また。

（富家 香麻里）

## 教会学校から

### 《6月の活動報告》

6月7日(日)  
クリーン大作戦

6月14日(日)  
花の日合同礼拝

6月21日(日)  
お父さんと一緒に遊んでもらう!

6月28日(日)  
プラとんぼを作って遊ぶ

### 《7月の活動予定》

7月5日(日)  
かきごおりを食べる

7月12日(日)  
プール遊び

7月19日(日)  
キャンプ・ソングを歌う

7月26日(日)  
キャンプ・ソングを歌う

7月27日(月)～29日(水)  
共同子ども能勢キャンプ

8月5日(水)～8月9日(日)  
共同子ども沖縄キャンプ

2009年7月 あんなこと こんなこと...



# 大切な贈り物・津門川 8 2

“ 川そうじ日記 ”



●@●@●@i,»、α,¶,İ,²^Ä`à

●@~Œ•`æ,P`ú-j`ú  
,È,Ä,Ä,ç,Ü,•B

●i&J`V,İ•@•†,İ-,•T,İ`ú-j`ú•j

,É`Ä`ã•i,İ•i,»、α,¶,İ•s

●参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミひろいをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるところまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川そうじスタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは、5つポイントがたまるとにしきた商店街で使える金券1000円と交換します。



●@@•Y&ã,İ•i,»、α,¶,İ,WE•,Q`ú,Ä,•B

## まいのなんでも案内

いよいよ暑くなってまいりましたね。今年は昨年までに比べて徒歩での移動が多いので（チャリがないので）、とうとう日傘を使い始めることにしました。わたくしのイメージとして、日傘は「おくさま」「おねえさま」のアイテムなので（まあ実際のそんな方々はリムジンで送り迎えしてもらって、陽に当たる機会なんぞないのでしょうが）、とうとう大人のお姉さんの仲間入り気分です。いやもう年齢的には充分大人なんですけど。更に言うなれば、仕事先で新人だと分かってもらえない落ち着きを備えてる（と言うと聞こえはいいが、要はフケてる）んですけど。昨年（まだれっきとした学生だった）、最後のゼミに遅れそうで飛び乗ったタクシーの運転手さんに「K 大学までお願いします」と言ったら「お仕事ですか？」と返されたぐらいの落ち着きですけど。夕方から大学で仕事ってわたくし何者に見えたんでしょうか。「え、いえ、授業です・・・」と言ったら「あ、ああ、学生さんですか！・・・賢いんですねー！」とのたまわれたので、理由は単にK 大生らしい賢いオーラが足りなかったということだと信じていますが。そして学歴詐称疑惑は卒業した今でもよく浮上しています。

から家に帰ろうとして反対方面の電車に乗っちゃったりしてますからね！後から乗ってきた上司に、あたかも自分が正しいかのように「あれ？A さん、こっちにお住まいでしたっけ？」と言ったのけて、かなり焦らせちゃいましたからね！高橋舞と書いてアホと読む。嫌だそんなの。七夕には帰巢本能が備わるようお願いしました。

ああいや、そんなことはどうでもいいんです。今回の問題は日傘です。せっかく持ち歩くなら可愛いものが良い、折りたたみでも重いのは嫌、そして晴雨兼用で雨天でもおかしくないデザインを、と探し続け、やっと先の週末に見つけました。持ち手が猫になっててとっても可愛らしく、かつ半額（ここ関西人的にとっても重要）の傘を！もうね、そりゃいそいそと買いましたよ。これで紫外線カット！さよなら汗だくのわたくし！だって知り合いのお姉さんが「夏は、日傘をさしてゆっくり歩けば汗なんかかきませんことよ」と言ってたんですもの！というわけでその次の月曜、朝は曇りだったので出番はありませんでしたが、昼間に出かけるときに使ってやろうと握り締めて会社を出たところ。わたくしを待っていたのは見事な豪雨だったのでし

た・・・。あう。

と、いうわけで愛らしいマイ日傘（命名：にゃんまる）は雨傘としてデビューを果たしたわけですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。前フリだけでかなりの字数になってしまいましたが、日々ネタに事欠かない生活なんですよ、本当に。最新ネタとしては、今朝目覚ましを完全に無視して寝坊して、起きて12分後には家を出て、35分後には5駅離れた会社にいたことですね。ご飯を諦めて、お化粧含めた身だしなみを整えるようになったあたりが社会人でしょうか。いやー焦りました。起きて時計見たとき、いっそ見なかったことにして寝直そうかって思いました。まさか社会人になって、身支度時間最短記録を更新するとは。（昨年までは14分が最短）皆さんの最短記録も是非教えてください。個人的に気になります。12分って結構いい線いってる気がするんですよ。大会があったら出場してみたいですね、是非とも。

て、これ、何かを紹介するスペースがもう本当にないですよね。すみません無計画で・・・。元々は、「日傘」

「私の夏生活の必需品」 「魔法瓶（サーモマグ）」 「中身は冷たいほうじ茶」 「一保堂のほうじ茶はとても美味しい」 「京都の一保堂の本店では、茶寮でお茶と甘味が楽しめるよ」という流れで一保堂（勿論ほうじ茶

以外も美味しいです）を紹介するつもりだったんですけど。ほうじ茶にお金かけるのもどうなのって考えもあるでしょうが、お茶バカのわたくしは、そこにこそ小さな贅沢と幸せを見出しています。渋みも全然なくて、色がすごく綺麗で。カフェインも気にせず飲めますし。いつもの麦茶も良いけれど、たまには試してみてくださいな。と、いうことで！何とか紹介の体裁を保てた気がしますので、今月はこのへんで。

（高橋 舞）

## つとがわ 編集後記

高齢者の施設で世話になっている父たちの様子が、少しずつ変わってきています。富山県氷見市の老健施設で世話になっている父は、訪ねて行った日によって様子は違っていますが、握った状態の右手指は、ほぼ全く動かなくなり、体は全体が固まっているように見えます。食事の時に車椅子で移動させてもらう以外、ほぼ一日中ベッドで横になっていますから、そんな状態になってもやむをえません。宝塚の父は、6月12日から軽い肺炎で再び病院で過ごしています。絶食状態からなんとか脱したりしましたが、病院側の誤嚥に対する配慮で絶食に戻って、又今少しずつ摂食が始まりました。特養施設と少し様子が違うのは、“安定剤”などの服用がされていないことです。ベッドで横になったままですが、うなずいたり、大きな声で笑ったり、表情はずいぶん豊かなのです。

(K)

最近、仏像が気になります(って、教会の通信に書いていますが・・・)。しばらく前まで東京で開かれていた『国宝 阿修羅展』が、この夏は九州国立博物館で開かれるそうです。秋には奈良に帰ってくるらしいのですが阿修羅に会いに九州まで行こうか～、今、思案中です。仏像、いろんな表情があるけれど、見ていると何故か心が落ち着きます。高校の時、友達がお寺を見に行こう～と、言っていて、そんなところに行くと何が面白いんだろう??とっていたけれど、今はそう言った友達の気持ちがわかるような気がします。これも少し歳を重ねたから?

あつい!アツイ!暑い!夏がもうそこまでやってきています。皆さんに素敵な夏が訪れますように・・・。

(I)

6月の最終日曜日に、淡路島の平安荘のワークキャンプに参加しました。私はこのワークキャンプが好きで、なるべく欠かさず参加するようにしています。身体を動かすのが好きな私。このワークキャンプでは、身体をいっぱい動かして、Tシャツが絞れるくらい(!?)汗をいっぱいかいて、とっても気持ちいいんです!!しかも普段あまり関われない小学生やお父さんたちとも話ができる貴重な時間でもあります。

更に今年は帰りに少し寄り道をして、海に沈む夕日を眺めることもできて、とてもいい1日になりました

(Y)

私の父と会った方は必ず「そっくり!」と言うくらい、そしてブブ(笑)と吹き出してしまう人もいるくらい父と私は似ているようです。顔だけでなく、性格も似ているみたいでよくぶつかってしまうのです...ぶつかるといってよりほとんど喋らない、という感じでした。でも最近父との会話が少し増えたような気がします。いつもいつも私のことを大切に思ってくれている父と母。そんな両親と一緒に過ごす時間をもっと大切にしていきたいなあと思っています。

(N)

あつというまに7月を迎えてしまった。すでに半ばを過ぎている。16日の朝刊で芥川、直木賞の作品と作家が発表されたのを知る。えーっ、あれからもう1年も!?ついこの間『悼む人』の作品をきっかけに天童荒太の世界をのぞいたと思っていたのに。そうか、そうだった、この受賞は半期に一度だったんだ。そこまで時間は早くはないけれど、でもやっぱり早いですよね。この時間のとらえ方を日本では過ぎるとか流れる「光陰矢のごとし」と表現したりしているが、外国ではその時間の真ただ中を突き進んでいくというふうを考えているらしい。そうなんだ、客観的に眺めてはいけいないんだ。で、直木賞になかなかの古参の作家、北村薫氏が選ばれていた。人となりや他人の作品を褒めて紹介するということでは傑出の人物とか。それっていいなあ。高村薫という作家もいて当初は混乱していた。作品を読むとよけいにその性別もわかりにくくなる。ご存じ?

(J)